

鳥インフルエンザ関係閣僚会議

日 時：令和5年1月13日（金） 8：40～8：55
（閣議前）

場 所：官邸2階小ホール

議 題：令和4年度シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザの発生への対応状況について

(鳥インフルエンザ事案)

総理指示

- 家きん業者に対し、厳重な警戒を要請するとともに、予防措置について適切な指導・支援を行うこと。
- 現場の情報をしっかり収集すること。
- 鳥インフルエンザと考えられる家きんが確認されたことから、農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- 国民に対して正確な情報を迅速に伝えること。

高病原性鳥インフルエンザの 発生状況及び対策について

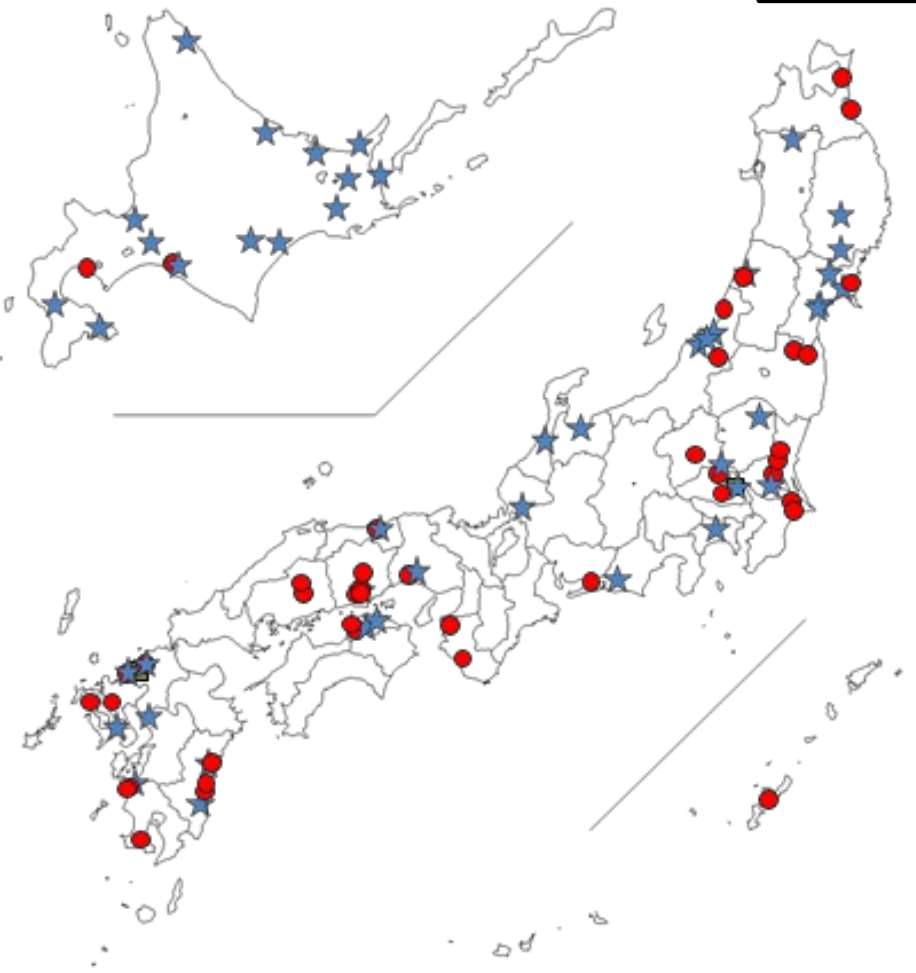
令和5年1月
農林水産省

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザの発生状況

○ 今シーズンは、過去最速の10月28日に国内1例目が確認されて以来、1月12日時点で23道県58事例発生し、約1091万羽が殺処分対象となっており、これまで過去最大の発生であった令和2年度シーズンにおける発生事例と殺処分対象羽数を上回った。

今シーズンの発生状況

● 家きん
★ 野鳥

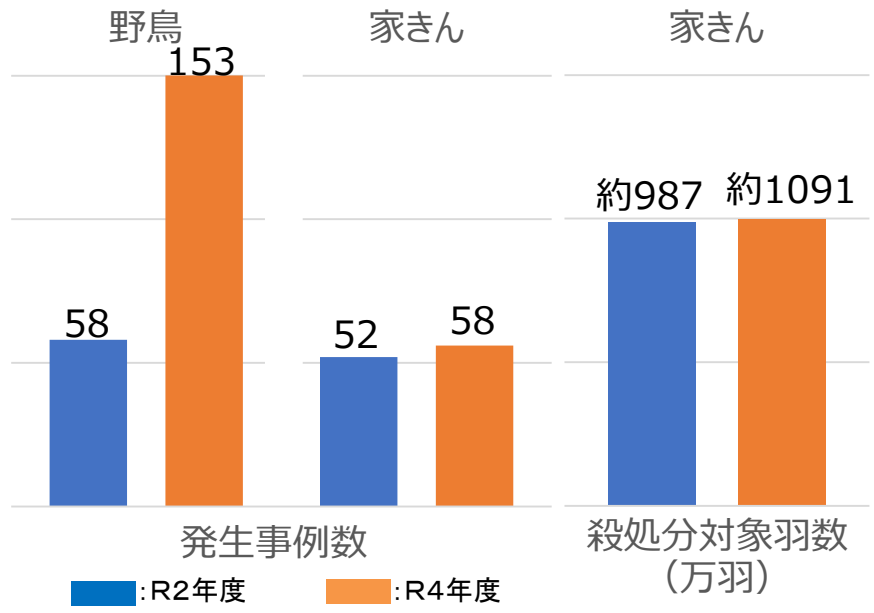


令和2年度シーズンとの比較

(1) 初発確認日

	R2年	R4年
野鳥	10月24日	9月25日
家きん	11月5日	10月28日

(2) 発生事例数（野鳥、家きん）、殺処分対象羽数



※野鳥における発生事例数は、R2シーズンについては令和3年度末までに高病原性と確認された件数、R4シーズンについては令和5年1月11日までに高病原性と確認された件数(環境省HP参照)

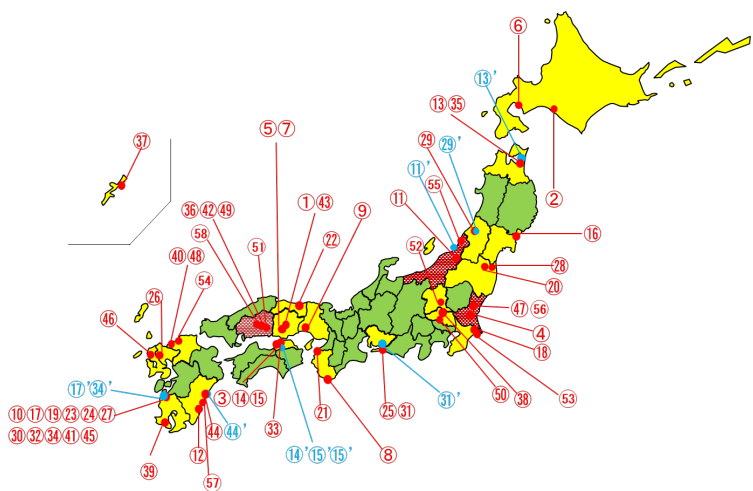
今シーズンの高病原性鳥インフルエンザの特徴

- 海外においては、今シーズンも韓国で発生が確認されているほか、欧米では夏以降現在に至るまで継続して発生が確認。
- そのような中、我が国では、野鳥での感染が**これまでで最も早く（9月25日）確認**。専門家は、全国的に環境中のウイルス濃度が高まっていると考えられると指摘。
- 発生事例数や殺処分対象羽数については令和2年度シーズンを上回ったが、基本的には、**早期発見・早期通報及び防疫措置は適切**にできており、それぞれの発生事例について**早期封じ込めはできている**。

R 4 シーズンにおける防疫措置の進捗状況（1月12日時点）

※1: 疑似患畜と確認した日 ※2: 飼養羽数は疑似患畜確認時の羽数

発生場所	発生日 ※1	飼養羽数 ※2	防疫措置に 要した時間	発生場所	発生日 ※1	飼養羽数 ※2	防疫措置に 要した時間
1 岡山 1	10月28日	採卵鶏・約17万羽	約6日	31 愛知 2	12月8日	あひる・約0.1万羽	約2日
2 北海道 1	10月28日	肉用鶏・約17万羽	約6日	32 鹿児島 8	12月9日	採卵鶏・約22万羽	約5日
3 香川 1	11月1日	採卵鶏・約4万羽	約3.5日	33 香川 4	12月11日	採卵鶏・約8万羽	約4日
4 茨城 1	11月4日	採卵鶏・約104万羽	約18.5日	34 鹿児島 9	12月11日	採卵鶏・約2.2万羽	約4日
5 岡山 2	11月4日	採卵鶏・約51万羽	約14日	35 青森 2	12月15日	採卵鶏・約137万羽	約15日
6 北海道 2	11月7日	肉用鶏・約15万羽	約6日	36 広島 1	12月16日	採卵鶏・約12万羽	約9日
7 岡山 3	11月11日	採卵鶏・約3.4万羽	約7日	37 沖縄 1	12月16日	採卵鶏・約4.5万羽	約5日
8 和歌山 1	11月11日	あひる等・約60羽	1日未満	38 埼玉 1	12月17日	採卵鶏・約19.4万羽	約6日
9 兵庫 1	11月13日	採卵鶏・約4.4万羽	約2.5日	39 鹿児島 10	12月18日	採卵鶏・約3.5万羽	約3日
10 鹿児島 1	11月18日	採卵鶏・約12万羽	約3日	40 福岡 1	12月19日	採卵鶏・約5.4万羽	約8.5日
11 新潟 1	11月18日	肉用鶏・約15万羽	約6日	41 鹿児島 11	12月19日	採卵鶏・約7万羽	約5日
12 宮崎 1	11月20日	採卵鶏・約16万羽	約2.5日	42 広島 2	12月19日	採卵鶏・約18.7万羽	約19日
13 青森 1	11月20日	肉用鶏・約12.2万羽	約4日	43 岡山 4	12月20日	あひる・約2.3万羽	約4.5日
14 香川 2	11月22日	肉用鶏・約2.4万羽	約4.5日	44 宮崎 2	12月21日	肉用鶏・約5万羽	約1日
15 香川 3	11月23日	採卵鶏・約1.4万羽	約3.5日	45 鹿児島 12	12月21日	肉用鶏・約3.7万羽	約2日
16 宮城 1	11月23日	肉用鶏・約2.1万羽	約1.5日	46 長崎県 1	12月22日	採卵鶏・約2.7万羽	約2.5日
17 鹿児島 2	11月24日	採卵鶏・約7万羽	約3日	47 茨城県 2	12月22日	採卵鶏・約11万羽	約3日
18 千葉 1	11月26日	あひる・20羽	1日未満	48 福岡県 2	12月26日	肉用鶏・約3.6万羽	約1.5日
19 鹿児島 3	11月27日	採卵鶏・約47万羽	約5.5日	49 広島県 3	12月30日	採卵鶏・約12.7万羽	殺処分終了
20 福島 1	11月29日	肉用鶏・約1.7万羽	約2日	50 埼玉県 2	12月30日	採卵鶏・約13万羽	約4.5日
21 和歌山 2	11月30日	採卵鶏・約4.6万羽	約5日	51 広島県 4	12月30日	採卵鶏・約29万羽	殺処分終了
22 鳥取 1	12月1日	採卵鶏・約11万羽	約5日	52 群馬県 1	1月1日	採卵鶏・約1.5万羽	約2.5日
23 鹿児島 4	12月2日	採卵鶏・約12万羽	約3日	53 千葉県 2	1月3日	採卵鶏・約1万羽	約1.5日
24 鹿児島 5	12月4日	採卵鶏・約3.4万羽	約2.5日	54 福岡県 3	1月3日	エミュー・約400羽	殺処分終了
25 愛知 1	12月5日	採卵鶏・約31万羽	約10日	55 新潟県 2	1月6日	採卵鶏・約130万羽	実施中
26 佐賀 1	12月6日	採卵鶏・約3万羽	約1.5日	56 茨城県 3	1月9日	採卵鶏・約93万羽	実施中
27 鹿児島 6	12月7日	採卵鶏・約6万羽	約1日	57 宮崎県 3	1月10日	採卵鶏・約10万羽	約2.5日
28 福島 2	12月7日	採卵鶏・約10万羽	約4日	58 広島県 5	1月10日	採卵鶏・約83.5万羽	実施中
29 山形 1	12月8日	採卵鶏・約2.7万羽	約4.5日				
30 鹿児島 7	12月8日	採卵鶏・約6.3万羽	約7日				



: 発生県（殺処分実施中）
 : 発生県
 : 未発生県

総理指示(10月28日)を受けた対応について

<総理指示> (10月28日)

- ① 家きん業者に対し、厳重な警戒を要請するとともに、予防措置について適切な指導・支援を行うこと。
- ② 現場の情報をしっかり収集すること。
- ③ 鳥インフルエンザと考えられる家きんが確認されたことから、農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- ④ 国民に対して正確な情報を迅速に伝えること。

<対応>

- ① 全都道府県に対し、鳥インフルエンザの早期発見及び早期通報並びに飼養衛生管理の徹底を改めて通知し、家きん農場における監視体制の強化を実施。併せて、経営支援対策を周知。
- ② 農林水産省政務による都道府県知事との意見交換を実施するとともに、疫学、野鳥等の専門家からなる疫学調査チームを派遣。
- ③ 関係省庁(※)と連携し、都道府県が実施する防疫措置(当該農場の飼養家きんの殺処分及び焼埋却、移動制限区域・搬出制限区域の設定、消毒ポイントの設置等)について、職員の派遣等、必要に応じた支援を実施。(また、環境省において発生農場周辺半径10kmを「野鳥監視重点区域」に指定し、県に野鳥の監視を強化するよう要請。)
- ④ 消費者、流通業者、製造業者等に対し、鳥インフルエンザに関する正しい知識の普及等(鶏肉・鶏卵の安全性の周知、発生県産の鶏肉・鶏卵の適切な取扱いの呼び掛け等)を実施。

(※) 関係各省：消費者庁、警察庁、総務省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省及び防衛省

家きん疾病小委員会からの緊急提言(11月28日)

- 今シーズンの疫学調査チームの現地調査結果等を踏まえるとともに、高病原性鳥インフルエンザが数多く発生していることを受け、11月28日、食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会家きん疾病小委員会を開催し、専門家から、**続発を踏まえた緊急提言として、全国的に環境中のウイルス濃度が非常に高まっており、①農場敷地内や鶏舎周囲の消毒の徹底、長靴の消毒・交換、野生動物の侵入防止などの農場での対策に加え、②ため池周辺等の消毒、ため池の水抜きなどの発生地域での対策が必要との見解が示された。**
- 同日、都道府県や関係者に対して、動物衛生課長通知を发出。

【家きん疾病小委員会からの今後の防疫対応に関する緊急提言】

1. 農場での対策

- ① 鶏舎に出入りする従業員等に、消毒、長靴交換等の重要性を説明し、**適切に消毒や長靴の交換ができていないか再度確認**すること。
- ② **農場敷地内や鶏舎周囲の消毒を毎日行う**こと。また、消毒はため池等の水場を意識し、その近くはリスクが高いことから、徹底して消毒を行うこと。
- ③ **猫やイタチ等の小動物や野鳥等が農場内に近づかないような対策**を講じること。
- ④ 開放鶏舎のみならずウインドレス鶏舎のように一見隙間がないように思われる鶏舎であっても、**飼養衛生管理者と鶏舎構造を熟知している者等が連携してねずみや猫をはじめとした野生動物等が侵入しそうなルートを探し侵入防止対策**を講じること。
- ⑤ 鶏舎の出入りの際に本病ウイルスを鶏舎内に持ち込むことのないよう**衛生管理区域に入る際の適切なタイミングでの専用衣服の着用、鶏舎ごとの専用長靴の設置、手指消毒及び長靴の消毒・交換等の適正な衛生管理**が日常的になされているか再度確認すること。
- ⑥ **消毒を行う際は、長靴等の汚れを落としてから行う**とともに、**消毒薬は汚れた都度、最低でも1日1回以上交換し、消毒薬が有効な状態での使用を徹底**すること。
- ⑦ 長靴の交換の際は、交差汚染を防ぐため**鶏舎外と鶏舎内で使用する長靴の動線が交わらないように注意**すること。

2. 発生地域での対策

- ① 発生農場を中心に半径3kmの区域に設定された**移動制限区域内では、感染拡大リスクが増大**していることを念頭に行動すること。
- ② 発生農場周囲の主要道路やため池周辺等の消毒、ため池の水抜き等の野鳥対策等について**地域の関係者が一体となった取組**を徹底して行うこと。
- ③ 続発を防ぐために、国、都道府県、市町村、関係団体及び養鶏業者だけでなく、**関連事業者、地域住民が一体となってまん延防止対策を徹底**すること。

鳥インフルエンザ対策の強化について

- 昨年12月22日の鳥インフルエンザ関係閣僚会議での総理指示を踏まえ、家きんでの高病原性鳥インフルエンザ発生道県から、道県の家畜防疫員の指導により、家きん農場において緊急消毒を実施中。発生した23道県のうち、13道県が昨年内に緊急消毒を開始。残りの県についても、今後の緊急消毒開始に向けて調整中。
- また、殺処分羽数が過去最多となったことを踏まえ、農林水産大臣から畜産関係者に対し、最大限の緊急警戒を呼びかけ。

【シーズン前からの取組】

○防疫演習の実施

各都道府県において、鳥インフルエンザの発生時に防疫対応が迅速に行えるよう、防疫演習を実施。
(令和4年度162回実施済み)

○毎月の飼養衛生管理の自己点検

令和2年12月以降、全国の養鶏場に対して、飼養衛生管理基準の遵守状況の一斉点検を毎月実施。(10月～5月)

○農林水産大臣からの注意喚起、飼養衛生管理徹底の呼びかけ

越境性動物疾病防疫対策強化推進会議(昨年9月)及び大臣メッセージの発出(昨年12月)
※大臣メッセージの発出(令和4年12月7日)



【昨年12月の関係閣僚会議を踏まえた対応】

○緊急消毒

家きんでの高病原性鳥インフルエンザ発生道県から、鶏舎周辺の敷地など家きん農場における消石灰による緊急消毒を支援。
(発生23道県のうち、13道県が、令和4年内に緊急消毒を開始。残りのほとんどの県についても、1月中の開始に向けて調整中。)

※緊急消毒の実施状況



○地域一体となった防疫の取組に対する支援

消毒機器の整備、ため池等での野鳥飛来防止対策などの地域一体となった取組に対して支援。

【過去最大の発生となったことを受けた緊急対応】

○農林水産省対策本部の緊急開催

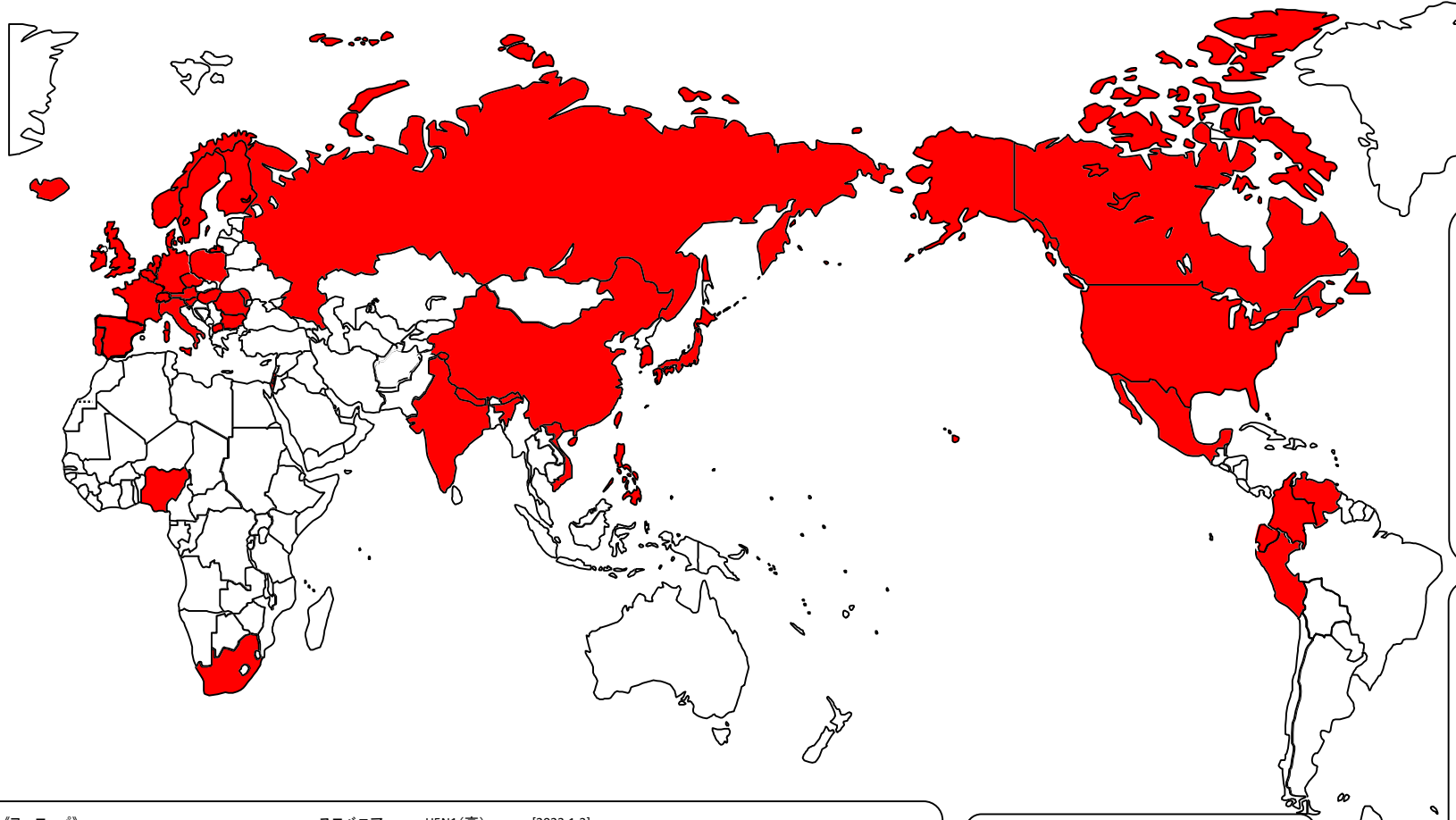
殺処分羽数が令和2年度シーズンを上回ったことを受け、1月9日に農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部を緊急に開催。
農林水産大臣から、畜産関係者に対し、最大限の緊急警戒を呼びかけ。

○鶏卵の安定供給の確保

農林水産省から、養鶏関係者に対し、鶏卵の円滑な供給に影響を与えぬよう、採卵鶏の飼養期間の延長など安定的な生産確保と家庭消費向けの優先供給を要請。

高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2022年7月以降)

■ :2022年7月以降に継続発生
または新規発生した国



《アジア》

日本	H5N1(高)	2023.1.6 [2022.12.28]
中国	H5N1(高)	[2022.7.9]
韓国	H5N1(高)	2023.1.2 [2022.10.20]
台湾	H5N1(高)	2023.1.3
香港	H5N2(高)	2022.12.28
インド	H5N1(高)	2022.11.17 [2022.11.18]
イスラエル	H5N8(高)	[2022.11.28]
イスラエル	H5N1(高)	2023.1.2 [2022.12.29]
フィリピン	H5N1(高)	2022.8.24
ベトナム	H5N1(高)	2022.10.3

《南北アメリカ》

米国	H5N1(高)	2022.12.20 [2022.12.16]
カナダ	H5N1(高)	2023.1.6 [2022.12.11]
メキシコ	H5N1(高)	2022.12.6 [2022.11.7]
エクアドル	H5N1(高)	2022.11.25
コロンビア	H5N1(高)	[2022.12.8]
ベネズエラ	H5N1(高)	[2022.11.17]
ペルー	H5N1(高)	2022.11.30 [2022.11.10]

《ヨーロッパ》

アイスランド	H5N1(高)	[2022.10.17]	スロベニア	H5N1(高)	[2023.1.3]	ブルガリア	不明(高)	2022.10.20
アイルランド	H5N1(高)	2022.11.18 [2022.112.21]	セルビア	H5N1(高)	[2022.11.22]	ベルギー	H5(高)	[2022.7.8]
イタリア	H5N1(高)	2022.11.3 [2022.12.29]	デンマーク	H5N1(高)	2022.12.31 [2022.12.4]	ポーランド	H5N1(高)	2022.12.30 [2022.12.28]
英国	H5N1(高)	2022.12.13 [2022.12.23]	ドイツ	H5N1(高)	2023.1.3 [2022.11.10]	ポーランド	H5N1(高)	2022.12.28 [2022.12.15]
オランダ	H5N1(高)	2022.11.19 [2022.12.23]	ノルウェー	H5N1(高)	2022.11.9 [2022.11.9]	ポルトガル	H5N1(高)	2022.9.27 [2022.11.15]
北マケドニア	H5N1(高)	[2022.11.2]	ハンガリー	H5N1(高)	2022.12.31 [2023.1.2]	モルドバ	H5N1(高)	2022.11.11
スイス	H5N1(高)	[2022.11.28]	フィンランド	H5N1(高)	[2022.8.16]	リユニオン	H5N1(高)	2022.10.1
スウェーデン	H5N1(高)	2022.12.14 [2022.11.23]	フェロー諸島	H5N1(高)	2022.10.2 [2022.9.22]	ルーマニア	H5N1(高)	[2023.1.4]
スペイン	H5N1(高)		フランス	H5N1(高)	2022.12.27 [2022.12.21]	チェコ	H5N1(高)	2022.12.30

《ロシア・NIS諸国》

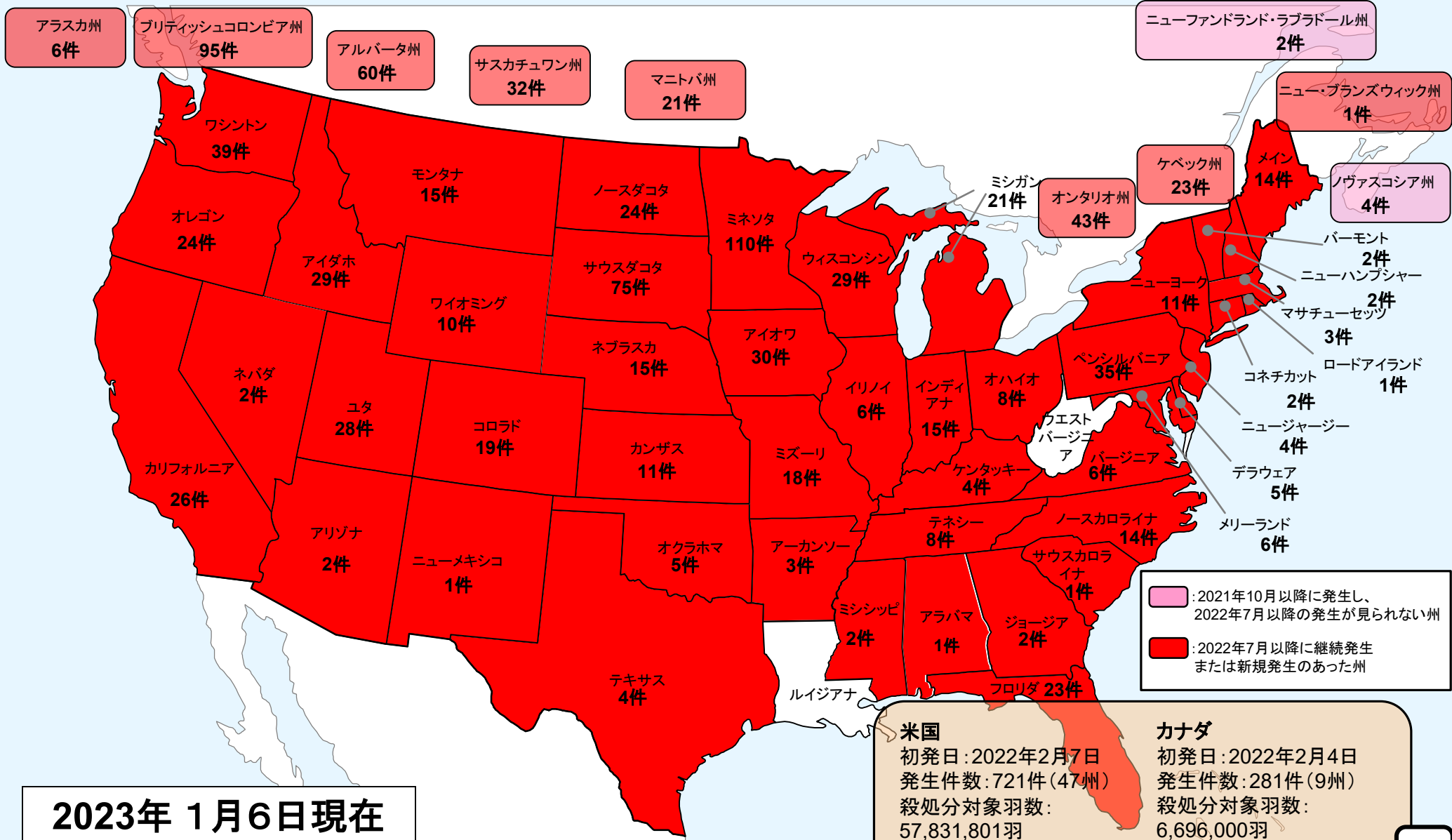
ロシア	H5N1(高)	2022.12.1 [2022.11.22]
-----	---------	---------------------------

《アフリカ》

南アフリカ共和国	H5N1(高)	2022.10.24 [2022.11.21]
ニジェール	H5N1(高)	2022.12.18

※日付は発生日又は検体回収日に基づく
 ※[]は野鳥及び愛玩鳥等における発生を示す
 ※本図は発生の有無を示したもので、
 その後の清浄性確認については記載していない
 ※型別に最新の発生事例を記載
 ※()は病原性
 ※韓国の野鳥については最新の情報更新が10月20日
 ※白色の国、地域であっても継続発生で報告されていない可能性もある。

北米の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年10月以降)



2023年 1月6日現在

裏庭農場での発生も含む。
 出典: 米国農務省動植物検疫局ウェブサイト、カナダ食品検査庁ウェブサイト、OIE-WAHIS

<p>米国 初発日: 2022年2月7日 発生件数: 721件(47州) 殺処分対象羽数: 57,831,801羽 (2022年10月以降 10,937,278羽)</p>	<p>カナダ 初発日: 2022年2月4日 発生件数: 281件(9州) 殺処分対象羽数: 6,696,000羽 (2022年10月以降 4,177,000羽)</p>
--	--

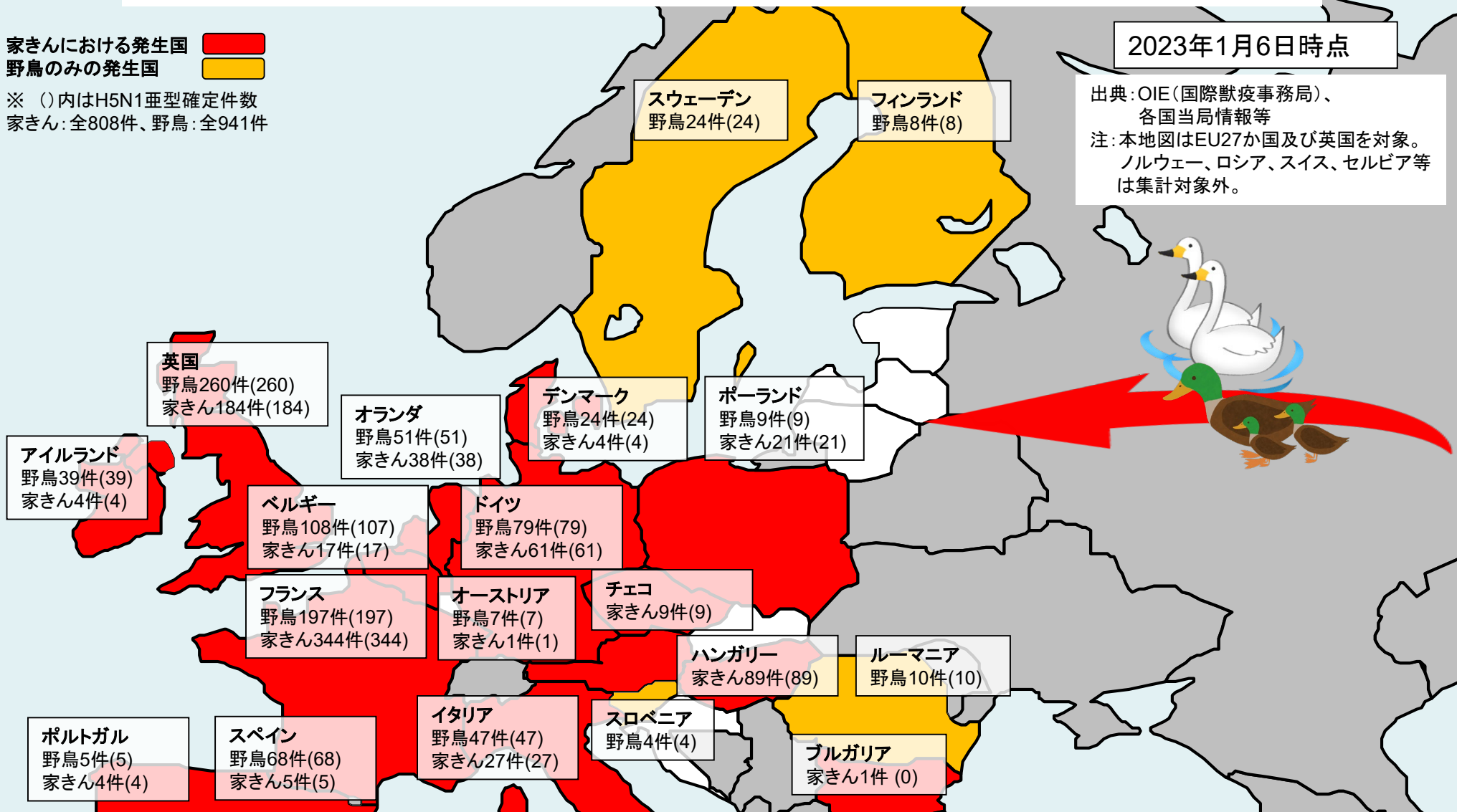
欧州における高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2022年7月以降)

家きんにおける発生国 ■
 野鳥のみの発生国 ■

※ ()内はH5N1亜型確定件数
 家きん: 全808件、野鳥: 全941件

2023年1月6日時点

出典: OIE(国際獣疫事務局)、
 各国当局情報等
 注: 本地図はEU27か国及び英国を対象。
 ノルウェー、ロシア、スイス、セルビア等
 は集計対象外。



【今シーズンの発生に関するEU関係機関の見解】

夏季でも野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されており、例年よりも高病原性鳥インフルエンザ感染のリスクが高い。特に北大西洋沿岸部において、海鳥の大量死が確認された。

最近の傾向としては、海鳥種での高病原性鳥インフルエンザウイルス検出数は減少する一方で、水鳥での検出数の増加が観察されている。高病原性鳥インフルエンザウイルスの家きん施設への侵入には、海鳥よりも水鳥の方がより深く関与している可能性が疑われている。

韓国の家畜における高病原性鳥インフルエンザの発生状況（2022年10月以降）

2023年1月10日時点
農林水産省動物衛生課

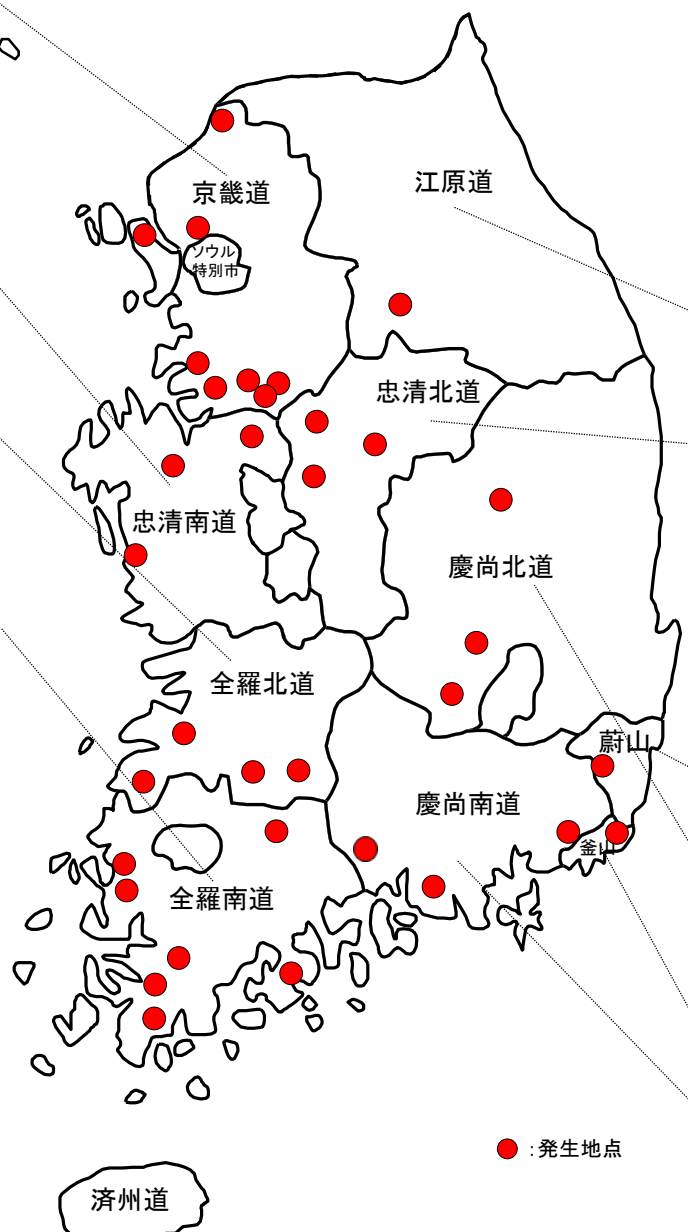
出典：韓国農林畜産食品部

京畿道				
2022.11.15	龍仁市	肉用種鶏	約4.2万羽	H5N1
2022.11.16	華城市	肉用種鶏	約2.4万羽	H5N1
2022.11.17	平沢市	採卵鶏	約0.6万羽	H5N1
2022.11.23	平沢市	採卵鶏	約3.5万羽	H5N1
2022.11.26	利川市	採卵鶏	約17万羽	H5N1
2022.11.29	安城市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.12.13	安城市	採卵鶏	約32万羽	H5N1
2023.1.2	金浦市	採卵鶏	約8.0万羽	H5N1
2023.1.2	漣川郡	採卵鶏	約9.3万羽	H5N1
2023.1.7	高陽市	採卵鶏	約7.6万羽	H5*

忠清南道				
2022.11.9	天安市	種アヒル	約0.8万羽	H5N1
2022.11.26	洪城市	観賞用鳥類	154羽	H5N1
2022.12.26	礼山郡	採卵鶏	約11.5万羽	H5N1

全羅北道				
2022.11.5	淳昌郡	採卵鶏	約15.5万羽	H5N1
2022.12.2	高敞郡	肉用アヒル	約0.7万羽	H5N1
2022.12.25	南原市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.12.31	井邑市	肉用アヒル	約1.1万羽	H5N1

全羅南道				
2022.11.15	長興郡	肉用アヒル	約1.1万羽	H5N1
2022.11.22	羅州市	肉用アヒル	約7.9万羽	H5N1
2022.11.26	高興郡	肉用アヒル	約2.6万羽	H5N1
2022.11.28	羅州市	採卵鶏	約5.5万羽	H5N1
2022.11.28	羅州市	肉用アヒル	約4.6万羽	H5N1
2022.12.1	羅州市	肉用アヒル	約1.4万羽	H5N1
2022.12.2	羅州市	肉用アヒル	約2.0万羽	H5N1
2022.12.3	務安郡	種アヒル	約0.8万羽	H5N1
2022.12.3	咸平郡	採卵鶏	約41.7万羽	H5N1
2022.12.4	咸平郡	採卵鶏	約8.0万羽	H5N1
2022.12.5	羅州市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.12.8	務安郡	種アヒル	約0.6万羽	H5N1
2022.12.8	谷城郡	肉用アヒル	約1.3万羽	H5N1
2022.12.8	靈岩郡	採卵鶏	約9.1万羽	H5N1
2022.12.9	務安郡	種アヒル	約0.9万羽	H5N1
2022.12.10	靈岩郡	肉用鶏	約12.0万羽	H5N1
2022.12.11	務安郡	肉用アヒル	約1.5万羽	H5N1
2022.12.11	靈岩郡	肉用アヒル	約2.9万羽	H5N1
2022.12.11	靈岩郡	採卵鶏	約3.9万羽	H5N1
2022.12.12	咸平郡	採卵鶏	約5.4万羽	H5N1
2022.12.12	海南郡	肉用アヒル	約3.6万羽	H5N1
2022.12.18	咸平郡	種アヒル	約1.6万羽	H5N1
2022.12.21	羅州市	肉用アヒル	約1.4万羽	H5N1
2022.12.22	谷城郡	採卵鶏	約5.3万羽	H5N1
2023.1.5	靈岩郡	肉用アヒル	約2.6万羽	H5N1



月	事例数	殺処分羽数
10月	3	約6万
11月	24	約142万
12月	29	約188万
1月	4	約33万
計	60	約369万

※農林水産省にて発生報告ごとに累計 ※予防的殺処分等は含まず
※事例数等は病原性が確定した事例のみ記載

江原道				
2022.11.14	原州市	採卵鶏	約6.7万羽	H5N1

忠清北道				
2022.10.26	鎮川郡	肉用アヒル	約1.8万羽	H5N1
2022.11.3	清州市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.11.4	清州市	肉用鶏	約5.6万羽	H5N1
2022.11.4	清州市	肉用アヒル	約1.3万羽	H5N1
2022.11.8	清州市	ウズラ	約49.8万羽	H5N1
2022.11.9	清州市	肉用アヒル	約2.2万羽	H5N1
2022.11.10	清州市	種アヒル	約0.4万羽	H5N1
2022.11.12	忠州市	肉用アヒル	約0.7万羽	H5N1
2022.11.17	清州市	種アヒル	約0.8万羽	H5N1

蔚山広域市				
2022.11.28	蔚山郡	採卵鶏	約6.5万羽	H5N1

慶尚北道				
★2022.10.17	醴泉郡	種アヒル	約1.0万羽	H5N1
2022.10.21	醴泉郡	肉用種鶏	約3.2万羽	H5N1
2022.12.21	星州郡	採卵鶏	約6.6万羽	H5N1
2022.12.23	漆谷郡	採卵鶏	約26.3万羽	H5N1

釜山広域市				
2022.12.19	機張郡	地鶏	220羽	H5N1

慶尚南道				
2022.12.12	晋州市	肉用アヒル	約1.6万羽	H5N1
2022.12.21	河東郡	肉用アヒル	約2.9万羽	H5N1
2023.1.1	金海市	採卵鶏	約12.9万羽	H5N1

※日付は症状が確認された日または検体採取日 ※ * は病原性検査中事例 ※★は初発生日(2022年10月17日)

令和5年1月13日

高病原性鳥インフルエンザ発生に係る環境省の対応について

1. 野鳥における発生時の対応と現状

- 野鳥回収地点の半径 10km 圏内を「野鳥監視重点区域」に指定し、発生道県と連携して野鳥の監視の強化を実施。
- 今シーズンの野鳥における高病原性鳥インフルエンザは、これまでで最も早い昨年9月末に初確認され、確認された都道府県数も過去最多となっている。
- 鹿児島県出水市の「野鳥監視重点区域」では、昨年11月以降、ツル類の大量死を確認。地元県市ほか環境省職員等の関係者と連携して、これまでに合計1,300羽を超える死亡野鳥の回収、処理等を実施。最近は回収数が減少しているが、引き続き関係者と連携して監視・速やかな回収を継続して実施する。
- その他の「野鳥監視重点区域」では、野鳥の大量死等の異常は確認されていない。

2. 家きんにおける発生時の対応

- 発生農場周辺半径 10km 圏内を「野鳥監視重点区域」に指定し、発生道県に野鳥の監視を強化するよう要請。
- 指定区域を管轄する地方環境事務所にて、発生道県と連携し現地周辺の野鳥に関する情報収集を行うよう指示。
- 野鳥での感染状況の把握等を目的として、発生道県において区域内の渡り鳥の飛来状況や鳥類の生息状況等の調査を実施するよう要請。

【参考】日本での野鳥及び動物園等の飼養鳥における
高病原性鳥インフルエンザの発生件数（令和5年1月11日時点）

時期	野鳥及び動物園等の飼養鳥	
	件数	確認都道府県数
2004年1-3月	9	2
2007年1-2月	1	1
2008年4-5月	5	3
2010年10月 - 2011年3月	64	17
2014年4月	0	0
2014年11月 - 2015年2月	13	5
2016年11月 - 2017年3月	218	22
2017年11月 - 2018年3月	46	3
2020年10月 - 2021年3月	58	18
2021年10月 - 2022年5月	107	8
2022年9月 -	153	25

※野鳥の発生件数には、環境試料（糞便、水）を含む。

※太線が各項目の最大数